

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501862		
法人名	メディカルケアサービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大宮吉野町		
所在地	埼玉県さいたま市北区吉野町2-263-4		
自己評価作成日	平成 31 年 2 月 6 日	評価結果市町村受理日	平成31年 4月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	平成31年 2月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様が気軽に足を運んでいただけるように、いつも笑いが絶えない、笑顔いっぱいのホームを目指しています。個々の潜在能力を最大限生かし、出来る事はやっていただくことに力を入れています。そうすることにより、生き生きとした生活を営んでいただきたいと思っています。とにかく楽しんでいただくことをスタッフ全員、常に考えて行動しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所に隣接して、公園があり、春の桜や秋の紅葉等、四季を感じる事が出来る環境にある。天気の良い日は、外出して散歩をすることを日課にしている。車椅子を利用する人も、たとえ5分でも外気を感じてもらえるよう支援している。第二の我が家を目指し、アットホームな雰囲気、笑顔が絶えない。職員の自主性や独自性を尊重して、職員同士何でも話せる環境にある。オープンな明るい雰囲気は、家族や友人、知人の来訪も多い。納涼祭や、お花見、芋煮会、クリスマス会などの行事には、家族や地域の子供達も参加している。また、医療との連携は、提携医による月2回の訪問診察と夜間も含む24時間オンコール体制となっている。訪問看護や訪問歯科も毎週来ていて健康管理に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各フロアのスタッフルームに貼りだし、毎朝、朝礼にて唱和しています。	毎朝朝礼時に「ケアの信条」を唱和している。二階のフロアでは、「オールフォーワン、ワンフォーオール」を掲げ、出来あいのおやつではなく、利用者が得意のおやつなどを作り、みんなに振舞い、楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こども避難所110番の家としてホームを登録し、市域とのつながりを深めています。	地域包括支援センターの催事には、積極的に参加している。事業所で開く納涼祭や芋煮会には、近所の人たちも参加して交流している。また、こども110番にもなっている。	開設から17年が経過し、地域との交流も深まっている。今後は、利用者の要望がある、書道のボランティアや、近隣の保育園との交流、学生の職場体験等が実現することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、ご家族様、自治会長さん、民生委員さん、オーナーさん、地域包括の方々に参加していただき、当ホームの取り組みをお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見、要望を聞かせていただき、よりよいホームに向けて、常に改善をはかっています。	各月開催し、自治会長を始め、民生委員、地域包括支援センター、家族も複数以上参加している。外出できる人は良いが、そうでない人が事業所で出来ることなどが提案され、漢字ドリルや塗り絵などに取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に、報告、連絡、相談をしながら進めています。	地域包括支援センターとは、緊密に連携している。地域の迷い人発生対策等や行事に参加している。また、市役所からは、よく研修案内が寄せられており、内容により、タイムリーに研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を適時におこない、注意・喚起を行っています。	月1回の全体会議の中で、研修を行っている。「身体拘束、虐待チェックシート」があり、「こんなことしてませんか」など、職員が見たこと、聞いたことをチェックしている。このシートを基に、身体拘束虐待防止委員会でお互い確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や定期的チェックをおこない、常に虐待防止の意識を持ってケアをするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会は少ない為、今後はもっと理解を深める必要があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、充分時間を取って、わかりやすく説明し、質問、疑問に答えるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見、要望にお応えし、日常は、面会のご家族様等より率直な意見をお聞きし、運営に反映させています。	運営推進会議や年1回行う、家族アンケート等で、家族からの、意見や要望をくみ取っている。アンケートでは、生活の様子から、入浴の様子が聞きたいとの意見があり、月1回発信している、お便りでお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議で意見を吸い上げ、反映しています。	全体会議やユニット会議で職員から、意見や要望が出される。職員の自主性や独自性を尊重している。職員が提案型になってきて、例えば、利用者の要望で書道の先生が欲しい等提案が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生面等、常に職場環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を、社内、社外、無料、有料のアナウンスを常におこない、職員のレベルアップの後押しをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、充分とは言えませんが、交流の機会を作り有効に生かしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のちょっとした変化や様子に常に気づくようにし、話を聞き出すようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画を立てるにあたり、十分な話し合いをして、不安や懸念を払拭するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒヤリングから、支援内容を探り出し、最優先の支援をおこなうようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援として、出来る事はやっていただくようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族・職員一体となって、信頼関係を築くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に足を運んでいただける開かれたホームとして努めています。	オープン以来「第二の我が家」を目指し、面会等は自由で、友人や知人の来訪も多い。友人とコンサートに行く人、ボランティアの和太鼓大会を見学に行く人もいて、家族と一緒に、馴染みのレストランに行く人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味が合う、話が合うといったことを常に把握し適正な関わり合いを模索しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や、吉野町便りを活用して、今まで同様変わりなく、つながりを大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を尊重し、それに沿った対応をしています。	入居前、どんなことが出来る、出来ない、趣味や嗜好、入居後どんな暮らしをしたいか等詳細聞き取っている。日々の支援の中では、一人ひとりに寄り添い、書道がしたい、編み物がしたい等会話の中で、くみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄の暮らし方を把握し、少しでもその生活を継続できる環境作りに専念しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の現状把握をおこない、そこを支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例の月一回のユニット会議、また必要に応じての臨時会議を開き、フロアスタッフ全員で共通認識を持ち、それを本人・家族・関係者と話し合い、進めていきます。	月1回のユニット会議が、ケアカンファレンスとなる。ケアマネジャーと職員全員が、介護記録やバイタル表を基に、ケアプランに沿った支援が出来ているか確認し合っている。確実に無理のない目標をみんなで話している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録に沿って、ケアの実践に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に満足せず、常に改善していく姿勢を持ち、推進していくようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の潜在能力を探り出し、生き生きと生活できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、月4回の訪問看護にて、医療体制を確立しています。	ほぼ全員が提携医を利用している。月2回の訪問診察がある。夜間も24時間オンコール体制で対応している。訪問看護や訪問歯科も毎週来訪して、健康管理に努めている。かかりつけ医の同行支援をすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告、連絡、相談をして、綿密な関係を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適正な利用者情報を提供し、情報共有に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での話し合いが、出来ているケースと出来ていないケースがあるが、少しでも早く話し合いの機会を持てるよう進めています。	重度化してきたら、家族、かかりつけ医、事業所が打ち合わせを重ね、連携して、出来ること、出来ないことなどの約束事を共有して支援している。看取りは、基本行うこととしている。看取りの経験のある職員もいて、研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制は取れているが、定期的な訓練は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した訓練をおこない、そのうち一回は、消防署の協力のもと、訓練をおこなっている。	年2回避難訓練を行っている。消防署の立ち合いもあり、家族の参加もある。火災は、厨房からの出火を想定して訓練を行い、非常時にすぐ来ることが出来る職員も4～5名いる。備蓄品も飲料水や非常食がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや、声掛けは正しく行われているか、各職員が注意し合う環境作りを心掛けています。	トイレは、ドアとカーテンを二重に取り付け、使用中の札もあり、プライバシーに配慮している。また、顔写真など個人情報についても、契約時に確認し、パソコンは、IDパスワードで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を尊重し、実践しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを最優先にして、希望に沿った対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に、着る物を選んだり、やりとりをしながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌い、アレルギーの有無、キザミ、トロミの対応もおこない、適切に食事をしていただいています。	食事は1階の厨房で作っている。出来る人は、テーブル拭きや食器洗いを手伝っている。また、納涼祭や芋煮会等のイベント食もある、入居者からのアンケートで、ラーメン、餃子などを一緒に作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事摂取量を記録し、コントロールしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に、リズムを付けて支援しています。	排泄チェック表を作成して、個々の状況に応じてトイレ誘導している。夜間は、午後9時から、2時間おきに全室見まわりをして、パッドやオムツ交換をしている。個々の排泄のリズムを崩さないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指導の下、取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を確認した上で、入浴しています。	週2回の入浴を基本とし、午後の時間帯を入浴タイムとしている。入りたくない人は、無理強いせず、時間をあけて、声掛けしている。職員と一対一での会話も弾み、唄もでて楽しいひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今迄の生活リズムを尊重して、状況判断しながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の内容を把握し、適正に服薬していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティア等活用し、生き生きと楽しんでいただくことを提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出は希望に沿って、協力支援しています。	天気の良い日の散歩は、日課としている。車いすを利用する人も、たとえ5分でも、外の空気を感じてもらう。初詣やいちご狩りなども喜ばれている。また、レストランでの外食もあり、本人の希望で、時計を直しに行くなどの支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、支援、対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、要望を尊重し対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、行事等の演出を装飾で表現し、共用空間は自然なシンプルさを維持し、居心地良く過ごせるようにしています。	リビングの窓からは隣接する公園が見える。春の桜や秋の紅葉など四季折々の景色を楽しむことが出来、壁に飾られた、雪だるまや節分の切り絵等作品からも季節を感じられる。エアコンで温度調節がされ、加湿器も3台設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様同士を、話しが出来る環境作りに努めたり、一人になれる空間も配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に、馴染みの物を居室に演出していただくよう依頼し、第二の我が家として、くつろいでいただくよう配慮しています。	第二の我が家を目指し、在宅で使い慣れたベッドやチェスト、趣味の物、家族の写真など、何でも、持ち込んでもらっている。出来る人は、自分で掃除もしている。次亜塩素酸のウォーターを使い、清潔を保持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分はこの中で役に立っているという気持ちを抱いて頂き、社会性を重要視しています。		